

わが町

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

企画・制作：株式会社 新聞ビル

葬儀専用ホール

常滑・青海

瑞雲殿

誠意と真心で…あんしんのかげはし

CSK葬祭

0120-33-5909
TEL 0569-35-2785
FAX 0569-35-2296

24時間
体制完備

青山さんの店に入ったとたん、どこかホッとするような、すごくいい「気」が流れていると感じた。そのことを言うと、青山さんは我が意を得たりという顔をして、「薬膳の勉強をしたせいもあります。味だけでなくお客さまへの思いとか店の雰囲気とか、目に見えない「気」を大切にしているんです」。「料理の味は思い出せなくても、おいしいと感じた気持ちや食事したときの雰囲気ってずっと覚えているものですよ。もちろん、料理には薬膳の理念を取り入れ、自然農法の米や旬の野菜など厳選した食材にこだわって、お客さんのお顔を思い浮かべながら作っています」と、清々しい表情で語った。

佳き「気」が流れる店
今やメディアに引っぱりだこの人気料理人、青山有紀さん。
昭和49年、京都市生まれ。東京・中目黒で京おばんざいと韓国料理を提供する店「青家」のオーナーシェフとして料理をふるまうほか、薬膳料理やスイーツも開発し、テレビや雑誌にもよく登場している。国立北京中医薬大学日本校で、国際中医薬膳師の資格も取得した。



Nobuo Murakami

元気のでてくる“ことばたち”

170

村上信夫

青山さん自身からも、佳き「気」が流れていたせい、気持ちのいい対談の時間だった。「気」は醸し出されるもの。食材の声を聴き、味や人の感性を汲み取れるから、自分の想

は、自分の「夢日記」をつけていた。「目黒区青葉台一丁目の一軒家で、おばんざいを出して」と夢日記に書いたことが、そのまま現実になった。

料理学校に通ったわけではない。京都で料理店を営んでいた母は、家族のために手料理を拵えてくれた。おや

一瞬一瞬に思いを込める 料理人 青山有紀さん

いをさりげなく醸し出せるのだろう。

姉が遺してくれたこと

青山さんには、自分を大きく変えた分岐点があった。それは、姉の純子さんが、6年前、27歳の若さで亡くなったことだった。

青山さんは、生まれた京都に25歳まで住んでいた。姉が飲食店を始めたので、一か月くらい手伝うつもりで東京に来たのだが、そのまま居続けて10年あまりになった。

店がオープンしたばかりの一月後、姉に乳がんが見つかった。しかも末期だと告げられた。結局、その店は手放すことになり、姉が有紀さんのために、今の店となる家を見つけてくれた。姉の店を手伝ううちに、自分も店をもちたいと考えるようになった青山さん



俳画／イネ・セイミ

■村上信夫プロフィール

2001年から11年に渡り、『ラジオビタミン』や『鎌田實いのちの対話』など、NHKラジオの「声」として活躍。
この4月からは、全国を回り「嬉しい言葉の種まき」をしながら、文化放送『日曜はがんばらない』（毎週日曜10:00～）、ABCラジオ『osaka歴史ロマン』（毎週月曜18:35～）、月刊『清流』連載対談～ときめきトークなど、新たな境地を開いている。
1953年、京都生まれ。
元NHKエグゼクティブアナウンサー。
これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。
著書に『ラジオが好き!』（海竜社）『ことばのビタミン』（近代文芸社）『いのちの対話（共著）』（集英社）など。

が覚えている。味の記憶もあるけど、自分が大切に育てられてきたという思いもすべて含まれているように思うんです」

「お母さんたちからしてみると、子どもの好き嫌いをなんとかしたいという悩みが一番多いんでしょうけど…。お母さんが大変だと思いつつながら作る料理は、子どもにも伝わるような気がします。作った人の気持ちや思いが体に入るから、苦しみながら作ると苦しい気持ちになる。私に泣きながら作った料理を知人に出したら、『今日は違う人が作ったような味がする』と言われたことがあるんです。辛い気持ちのときはキッチンに立てへんなと思いました」。

作る人の思いと食べる人の気持ちはつながる。言葉を生業にしてきた私も、言葉も気持ちはつながっていると思う。プラスの言葉を発すると気持ちがよくなるし、マイナスの言葉を口に出すと悪しき気持ちになる。そのことを指摘すると、青山さんも同調してくれた。

「私も姉から教えられました。何があってもマイナスの言葉は口に出したらあかん。すごく大変なことが起きたら、逆にラッキーやと言いなさいって。そうしたら大事な気づきを必ずもらえるはずや」と。

青山さんの姉は、自分が死ぬことで、何かを残そうとしてくれたのかもしれない。姉は優秀だったからいつも家庭の中心にいて、昔は「私なんか生まれて

なくてもよかったんじゃないか」って思ったこともありました。姉は私にとってもやさしく、一番生きていてほしい人が死んでしまつて、なんで私が生きているんだろうと考えたとき、私はただ生きているんじゃないかと生かしてもらっているんじゃないかと。そうしたら一日一日、一瞬でも無駄にはいけないうようなになりました」。

青山さんの心残り、姉が最後に食べたものが、病院から出されたゼリーだったことだ。体調も回復していたので、まさか亡くなるとは思わず、自分で作った野菜スープを飲ませてやれたらよかったと今でも後悔している。「その悔いがあるから、これが最後の食事になつてもいいと思えるものを作っています」。

青山有紀さんの「紀」は紀元の「紀」だが、いまのような考え方をする前の「紀元前」と、いまの「紀元後」とでは、自分自身が大きく変わったようだ。

ラジオが好き!

好評
発売中



イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。
絵画を幼少より日展画家の（故）川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元（故）村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 月二回 第二・第四金曜日
午後一時～三時
会費 一回 二、二五〇円（三ヶ月分前納制）
問合せ ☎〇五六九三三〇四七〇

インディアンフルート教室
開講しました。
誰でもすぐに吹けます
入会受付中!!

何か始めたいと
思っている貴女へ
数年後、素敵に
フルートを奏でる姿が
そこにあります。
楽しく個人レッスン
致します。

講師 イネ・セイミ
（フルート奏者 指導歴30年）
1レッスン・1時間5,000円（ティータイム付）
申込み
お問合せ 0569-89-7127
seimine@oasis.ocn.ne.jp

新シリーズ ヒューマンライフ

『新・現代家庭考』 就職

— 自分ドラマつくろう — (20) 岡田 清治

不倫

前島はクリニックを出て帰路についた。
このまま家に帰る気がしない。駅近くのバーに入ってカウンタ―席に座った。七時過ぎと早い時間のため、二人の客が話し込んでいただけであった。前島は二人と少し離れた席でバーボンのロックと野菜スティックを注文した。

二杯目になると、「自分の結婚はいずれ破たんする」という予感が頭の中を巡った。

やがて瞑想していると天野聖子が登場してきた。

「天野さん、打ち上げの意味で飲みに行こうか」

と誘いたい気持ちが彷彿と湧き起ってくる。

「誘いを受けてくれるだろうか」

と不安にもなる。「振られてもいいではないか」と、一方で意を決したい気分もある。

店の客がだんだん増えてきた。三杯目を飲み終えたところで、店を出て家まで歩いて帰った。

「まだか」

部屋が暗かった。

ソファで横になって、そのうち眠ってしまった。

目を覚まして時計を見ると、朝の三時を回っていた。体には毛布が掛けられていた。寝室をのぞくと、恵美は布団にくるまって寝ていた。

前島は目が冴えて眠れないので、リビングのテーブルで紅茶とケーキを食べながらクリニックで聞いた話をしようか逡巡した。

「子宮内膜症について『家庭の医学』で調べてみた。軽度の場合は妊娠が可能とある。いずれにせよ、検査しなければ判断できない。恵美は会社で定期的に健康診断を受けているので、その兆候があれば精密検査をすすめられるだろう。」

前島は一方で天野のことを考えていた。四月最終週の金曜日夕方、研究所のあるＪＲ川崎駅近くの居酒屋で新人の歓迎会が予定されている。これが終わると残り一週間ほどでＯＪＴによる指導は一応終了する。正式な配属は人事部でＯＪＴの報告書を見て決める。

「たぶん、自分の部署になるだろう」

という予感が前島にはある。しかし、自分の前から遠ざかっていく心配もある。歓迎会の前に天野を誘いたい焦燥感に似た気持ちもあった。

時計が朝の五時を回ったころ、恵美が眼^め氣^き眼^めををこすりながら起きてきた。

「おはよう。ぐっすり寝ていたので起こさずに毛布をかけたの」

「そうか。遅かったのか」

「打ち合わせが長引いたの」

「忙しいのだな」

「プロジェクトがうまく進まないの。迷惑をかけてすみません」

「いいんだよ。僕も今日は遅くなるので夕食はいらん」

「はい」

恵美は何があるのと、聞かない。聞かないから自分もあまりしゃべらない。底なし沼に落ち込んでいく気がしてくる。

二人は簡単な朝食を済ませ時間をずらせて家を出た。

前島が会社に着くと天野は席にいた。

「おはよう」

朝の挨拶が自分でもどこかぎこちないように思える。

「おはようございます」

天野はグレーのツーピースに淡い水色のブラウスで爽やかな印象を与えていた。

「この前話したように今日は横浜のお得意先に行く予定です。帰りが少し遅くなるかも知れないが、なにか予定がある？」

前島は天野が英会話の教室に通っていることを思い出してさりげなく聞いた。

「いいえ。大丈夫です」

「そう」

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX：0569-34-7971

メール：takamitsu@akai-shinbun.net

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX：0569-34-7971

メール：takamitsu@akai-shinbun.net

※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX：0569-34-7971

メール：takamitsu@akai-shinbun.net

ケープタウン(南ア)の港(著者撮影)



※この物語に対する読者の方々のコメント、体験談を左記のFAXかメールでお寄せください。今回は「就職」「日本のゆくえ」「結婚」「夫婦」についてです。物語が進行する中で織り込むことを試み、一緒に考えます。

FAX：0569-34-7971

メール：takamitsu@akai-shinbun.net

■プロフィール

著者：岡田清治 おかだ せいじ

一九四二年生まれ ジャーナリスト

(編集プロダクションNEXT108代表)

著書に『高野山開創千二百年 いっ

ばんさん行状記』あなたは社員の

の全能力を引き出せますか！』

『リヨンで見た虹』など多数

内心はつとした。予定を変更すると機会を逸すると思ったからだ。

この日、前島は横浜の得意先をシティホテル内の料理店で夕食に誘っていた。そこに天野も同席させ、客を見送ったあと、ホテルのバーで二人で飲み計画を立てた。ついでにダブルの部屋も予約したのである。一瞬、黙って外泊することに躊躇したが、すぐに決断した。

前島と天野は午前中のデスクワークを終え、昼食後、東京新宿の大手コンピュータ会社に表敬訪問のため出向いた。天野を紹介したあと、前島は最近の情勢を聞きたくて話を向けた。

窓口の半導体担当者から「国内の半導体はこれから一段と厳しくなる」という見通しを聞かされた。国内メーカー数社が競っているのは、巨大資本のアメリカのメーカーに負けるというのである。というのはコンピュータの世界にはこれまでのような大型機種に代わってダウンサイジングの波が押し寄せているというのだ。小型機種でも機能が大型並み以上のものが開発されてきているというアメリカの専門誌の論文が掲載されていたからだ。

「そうなりますと、国内の半導体はどういうことになりますか」

「今の時点で断言はできませんが、二極分化されるでしょうね。つまり最新鋭向けの高度な半導体と汎用性の高い格安の市場向けのものに分かれていくように思います」

「国内メーカーは高性能な半導体の開発でしごきを削っています。が、このままいくと共倒れの心配がありますね」

「それはどうか、わかりませんが、むしろ汎用性の半導体市場では後発の台湾、韓国に凌駕される心配があるのではないかと思います」

「汎用性の半導体が使われる市場が拡大していくということですか」

「そうです。コンピュータも小型化するとともに、性能は以前の大型並みのものが登場してきています。そうなりますと、半導体も高性能で価格の安いものが求められます。ところが、日本企業の人件費はいまやアメリカをしのぐほど高賃金になりつつあります。一方、開発途上国の賃金は日本と比較しても格安です。このため、性能を高めてくると、国内の半導体は競争力を失う心配があります」

「実は、私どもの研究所の会議でも韓国、台湾の脅威については報告されています。ただ、影響を受けるのは先のことだろうとやや楽観的な見方が支配的です。そのあたりの見通しはどうでしょうか」

「難しいですね。ただ大きな波のうねりは遠くから見えますと、ゆっくり進んでいるように見えます。近づくにきますと、一瞬にして飲み込まれます」

「なるほど、その通りですね。技術革新の波が見えない間は、まだ大丈夫だと思ってしまうですが、見える段階になって開発に乗り出しても手遅れになります。その見極めが大事ですが、どうしても保守的になりがちです」

「どの企業も同じです。変革にはリスクが伴いますから経営者には相当な決断が求められます。だからこれまでの流れで安住してきたのでしょうか」

「本日は貴重なお話、ありがとうございました」

前島と天野は玄関まで見送ってくれた担当者に深々と頭を下げて出た。

二人にはショックな話であった。

「コンピュータのダウンサイジングというのは、進んでいるのですか」

「確かに、そういう動きは感じるが、どこまで現実的なものかわかりません」

「アメリカの専門誌にその時期は間近いと書いていましたね」

「そうか、天野さんは英文の論文に目を通したのだね」

「論文を見せてもらって少し読んでみました。そこには危機迫るとオーバーな表現でしたが、そう遠くないような記述がありました」

「そうか。一度調査してみる必要はあるね」

「そうですね」

二人はＪＲ横浜駅からタクシーで海岸近くに立つ瀟洒^{しょうさ}なホテルの玄関に乗り入れた。約束の六時に一〇分前であったが、そのままレストランに向かった。案内のホテルマンがレストランの予約部屋に二人を案内した。

やがてコンピュータの大手部品メーカーの資材部長と次長が部屋に案内されてきた。

「本日はお忙しいところ、お時間をいただきましてありがとうございます。こちらは新人の天野でございます。どうぞよろしくお願います」

前島は天野が同席したことで、二人の資材関係者とは顔見知りであったがやや緊張気味に挨拶をした。

「こちらこそ、よろしくお願います」

と次長がニコニコしながら挨拶を交わした。

フランス料理のコースだったので、グラスの生ビールのあとに、ワインを頼んでおいた。料理が程よい間隔で運ばれてきた。杯を重ねるにしたがい、話が盛り上がった。天野も結構、飲んでいると前島は感心した。

「あるコンピュータ会社でお聞きしたのですが、コンピュータのダウンサイジングの波が押し寄せているそうですね」

と前島は先ほどの話を確認しようとして持ち出した。

「ダウンサイジングですか。そういう話はあまり聞きませんね」

「そうですか」

「それは将来の話ではないですか」

「そうかも知れませんが」

前島はこれ以上、突っ込まないことにして話題を切り換えた。資材担当の二人はこの後も予定があると聞いていたので、食事を済ますと、お土産のワインとタクシー券を渡して玄関で見送った。

前島はホテルのバーで飲み直そうと天野を誘った。

「こんな素敵なホテルで食事して泊まれたらいいな」

前島はまだあどけなさが残る若い女が口走った言葉に心臓が止まりそうになった。二人はウイスキーの水割りをカウンターで飲んでいたが、天野の発した言葉に一瞬、めまいを感じるほどだった。

「少し、酔ったのと違うか」

「酔ってなんかいませんよ」

「泊まるかどうかは別にして部屋でちょっと、休んで行こうか」

「本当ですか」

「部屋が空いているか聞いてくる」

前島はすでに予約をしていたので、チェックインのためフロントに行った。

宿泊名簿に妻の名前を書いた。

「部屋を取ってきたので、港の夜景を見ながら休もう」

「はい」

二人はエレベータに乗って最上階の部屋に吸い込まれるように入った。

(続く)

ギネス記録挑戦 ドタバタ記

本郷照代

今から六年前の平成十八年十月八日午後二時四十分。私の住む西尾市では、一万四千七百十八人の人々がいつせいに路上の緋毛氈の上で自分で抹茶を点て、合図とともにそのお茶をいただきました。

この「ギネスに挑戦 西尾大抹茶会」は大成功をおさめ、その参加人数はギネス記録として登録されました。この時の様子は、新聞等で報道されましたのでご記憶の方もおりでしょう。私は、少しばかり英語ができるというので友人から依頼され、イベント当日までのほぼ一年余り、ギネス社との交渉や案内、通訳などのお手伝いをするという得難い経験を見せてもらいました。今日は、その日を迎えるまでのドタバタ記をお話ししたいと思います。

まず、ギネス社に記録挑戦の許可を得るというだけで半年かかりまし



た。ギネスブックに登録されるには、その記録がギネスブックのどの部門に該当するのか、またその記録がギネス社にとって記録挑戦に値するものかどうかについて事前審査というものがあります。そこで私は、ギネス社のサイトを通してどんな記録挑戦を計画しているか、ギネス社に魅力的な記録挑戦だと思われるような文言を考えてメールしてみました。依頼を受けてすでに一か月がたっていました。

返事が来るまでに通常三〜六か月かかるとホームページにありましたので、ひたすら待ちました。年が明けても何の進展も見られず、しびれを切らした主催者側の商工会議所事務局からは「返事はまだか?もうこうなったらロンドンまで行つて来たらどうだ!」と言われました。その旨メールすると「来ても会えない。来ないでください」とつれない返事だけはすぐに来ました。

三月末、やっとサイト上に返事が届きました。画面には、「その記録挑戦を許可します。ついては、添付した書面で正式に申し込んでください。」とありました。

記録挑戦の許可は下りましたが、正式申請の前にいくつかの難問が控えていました。たとえば会場の問題です。一万人を収容できるホールや体育館、あるいは公園などは西尾市にはありません。そこで事務局が考え出したのは、市の中心通りに緋毛氈を敷き、そこを茶室に見立て、

一万人がいつせいにお茶を自分で点てていただく、というものでした。

この案を早速英訳してメールすると、ギネス側の回答は、「会場はクローズド、つまり閉じられた空間でなければならぬ」「どこからでも出入りできる開かれた空間は会場と認めない」というものでした。何度も何度もメールをやり取りし、最終的には「通りの随所に警備員を配置してしっかり監視する。また参加者全員の名簿を作成して会場の出入り口(ゲート)でチェックをする。」ということで承認を得ました。すでに蟬の声が聞こえる頃となっていました。

ある日、ギネス社からこんな申し出がありました。

「イベント当日、本社の審査員を立ち会わせることにより、記録申請から通常六か月はかかる判定が、すぐその場で可能。ただし、その場合の費用は審査料として二〇〇〇ポンド。」というのです。これはイベントの大きな目玉になると、事務局に提案し申し込みをしました。しばらくすると、「審査員が『マルコ・フリガツティ氏』に決まった。今後は彼と連絡をとるように」と言ってきました。

しかし、そのマルコともスムーズに連絡が取れたわけではありません。というのは、彼は審査員として常に世界中を飛び回っていたからです。イベントまであと二か月というのにメールの返事が来ず、いらいらしながら待つ状態が続いたある日、彼から私の携帯に直接電話がかかってき

ました。その時私は、電車に乗っていました。しかも、ちよつとキザですが、結婚三十周年記念として何年も前から計画していたイタリア旅行の最中でベネツィア行きの列車に乗っていたのです。あれだけ、日本で一日千秋の思いで連絡を待っていたのに、よりによってこんな時に電話がかかってくるなんて、と少々恨みがましく思いながら急いで列車のデッキへと走りました。せつかくの記念旅行なのにその後は列車の駅、空港、ホテルに着くたびにパソコンに飛びつき、マルコとのメールの受信と日本の事務局との連絡にかかりきりになっていました。

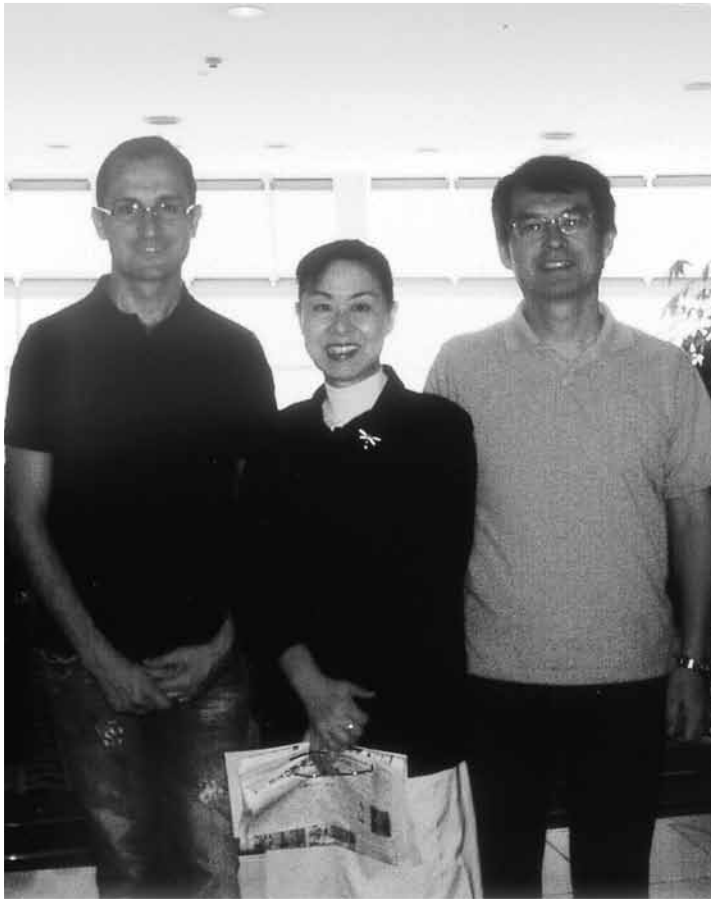
日本に戻り、マルコを通してギネス社へのさまざまな交渉、確認、報告等こなし、いよいよ明日は当日という十月七日を迎えました。ところがここで事件が起きました。その日、審査員のマルコはロンドンから成田経由で国内便に乗り換え、午後六時十分中部セントレア空港に到着する手筈になっていた。空港に迎えに行こうと玄関で靴を履きかけた時です。家にFAXが一通届きました。

「強風のため、飛行機がヒースロー空港を出るのが4時間遅れた。マルコ」

えっ!成田の乗り換えは一時間のはず。それでは間に合わない!肝心の審査員がいなかったら明日のイベントは台無し!彼は今どこ?パニックになりそうなのを必死に堪えて代替手段を考えました。新幹線だ、今日の最終便ひかりなら間に合う。とつさにANAの成田オフィスに電話して、メッセーボードを書いて入国ゲートで立っていただくいと頼みました。

「マルコへ。東京駅から新幹線に乗って名古屋へ。そこで待ってます。テルヨ」

さらに事務局に、今夜の歓迎会



は中止と連絡。それから宿泊予定のホテルには到着は夜中になるがよろしくと。つぎは、名古屋駅近くで深夜食事のできるところを予約しておかねば。あたふたと電話帳をめくり、電話をかけまくっていたら、当のマルコから電話がかかってきました。

「今、東京駅に着きました。ANAから三万円もらいました。でも小銭が無いから長く話せません。これからどうすればいいですか?」

「十時の新幹線ひかりがあると思うからそれに乗って。名古屋へは十一時五十分ころに着きます。名古屋駅で待ってますから、そこで会いましょう。気を付けていらしてください。」

「朝起きたら、目の前にボクの生まれたベネツィアと同じ風景が広がっていました!」と興奮した様子がうかがえました!と興奮した様子で一気にまくしたてました。そうか、イタリアのベネツィア出身かあ。やつぱり、このホテルにしてよかった!彼の満足げな顔を見ながら、私はこの時なげか、今日のイベントはきつと成功すると、確信していました。

夫と私は車で中部セントレア空港ではなく、名古屋駅へと向かいました。改札口でドキドキしながら待つことしばし。南改札口に現れたのは意外なほど若くてイケメンのマルコ・フリガツティ氏でした。ちよつと照れたような笑顔が印象的でした。その後予約した店で一時間ほどくつろいでホテルへと向かいました。着いたのは午前二時五分。事前に連絡しておいた吉良海岸のホテルではフ

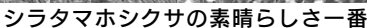
■本郷照代のプロフィール

1975年 南山短期大学卒業
1975年 日本興業銀行勤務
1985年 英語教室主宰
1991年 日本大学(通信制)卒業
1994年 タウン誌「みどり」編集委員
2007年 一色町議会議員

原穰

「覆っています」と言ったものです。事実、九月の公開日には、シラタマが見頃を迎え、その美しさにうっとりでありました。

シラタマを見るなら、壺町田が一番、なんて言つてましたが、最近では阿久比の高根湿地のシラタマが素晴らしい。



した。
高根湿地に咲くシラタマの面積は、沓町田に比べて二倍強でまさに満天の星写真(1)は、今年の9月末頃に撮ったものです
が実に見事
周りに目をやれば、茎の先に茶色のつくつくした小穂をつけたイヌノハナヒ

今年はなぜか可憐な黄色

の花をつけたスイラン(2)がよく目についた。葉の細さからランを思い、水辺に多く生えることから、スイランと呼ばれるようになったと言われるが、高根湿地でも、菖町田湿地でも、今年はいよく目立った。

陶芸家
谷川勝明さん

ちよつとおじやまします

ここにも以前のようには作品が売れなくなつた。昨今、谷川さんは営業術なるものを仲間から教えてもらつてゐるようだ。作家や職人として活躍する仲間とのふとしたコミュニケーションから、刺激を受けることも多い。急須が10万円で売れたと聞けば、ヒントを探り、その人の仕事の奥深さを垣間見る。焼き物の他産地の訪問にも余念が無い。情報収集だけは盛んだけれど、一向に作品は売れないとぼやいてい

る。何かを作っている人は、ぼやくだけでなく、相づね残したいと話す。

手が求めているものを瞬時に察することが必要なのだろう。

谷川さん 作品を生み出す苦しみも、全部この工房でどつぷりと味わっているのだから。物や薪窯で焼く。

薪窯で焼いたものが、谷川薪窯は焼いてツ通りには焼

近頃、谷川さんはお茶ナビの会に加した。世間に聞いかけることも、経済活動も必要だと感じ始めたからだ

(赤井 伸衣)

津島神社の参道があります。津島神社は、丘の頂上、寺本城の曲輪に鎮座しています。丘に登る細い参道には土砂が流れるのを止めるためか石組みが所々にありました。

丘の上は、一面に平らとなっていています。その海岸に最も西端に津島神社がありました。雑木が伸び、高く茂っていたので、周りの見通しはよくありません。かつては、建物を造り、見渡

した風景は、この地を収めた武將を満足させるものであったでしょう。

この城の城主の花井氏は一四四〇年代、すでにこの地に居住していたといえます。寺本城が歴史に登場する

（一五六〇年）を経て、信長の長島攻め（一五七一年）で、大野や内海などとともに船をだした水軍として名を連ねています。

常滑市大野城と同様に寺本城の木立ちのすき間から、

数珠王をてぐすに通しネックレス
 鯖雲や鱗の崩れ広がりぬ
 穂やかに徳川園の初紅葉
 ゴンドラの衆々散歩秋うらら
 御澄ましの孫に見惚れる七五三
 植えしひとと思ひ出させる石路の花
 蔵の街秋を彩る山車祭り
 手に余る椎の実落つる徳川園
 柔印なる十一月という日差し

吉田ひろし
 桑山 撫子
 富田 悦子
 林 京子
 浦崎ひとみ
 藤井 文月
 清水久吉
 江端 久恵
 客路 告美

四十名 参加費 概してなし
 四千九百円 桶持参
 四千二百円
 ▼家庭教育セミナー「よい子に育つほめ方、叱り方」十一月(火)午前10時～正午 子育てに関する学習会と質疑応答 参加費 無料 問合せ 知多家庭教育研究会 山下 由 72-19002 ※参加自由 子ども連れOK

▼十二月の星見会「木星を
よう・明るく木星と冬の星
望遠鏡で観察・十五日(土)
後六時半〜同八時 定員
六十名(要予約) 料金
四百円

奥 川 弘 成

知多市歴史民俗博物館の学芸員真田さんの案内で、寺本城を訪ねました。かつては海岸で、後に田畑となった寺本の集落に城がありました。海に向かって、せり出すかのような標高二十五メートルほどの雑木林の丘に城が造られました。



(一五五四年)がありました。このとき、花井氏は、信長勢の帰路を遮るなどの謀りごとをしたそうです。これに対し信長は寺本城のふもとに火を放ち落城させた。信長公記に記されました。

その後の花井氏の話はよくわからないようです。寺本の地は、桶狭間の戦い

る大野城は、標高五十餘ほどの高い位置にあります。この二つの城の外、先に記した西海岸の城を訪れると、戦国時代の武將の視線が遺跡を通してながめられる面白さが味わえます。

七五三なかなかな逢えぬ曾孫抱く
肩に置く子の手温か身にぞ入る
凜と咲く石路に生き方教えられ
紅葉の映える景色や富士の山
道の駅降りれば匂ふ蒸かし諸
五色なる本曾の山路の紅葉山
過疎の里点灯早い冬の暮
青空に溶けこみそうな金木犀
主逝く柿の実めげ鳥騒ぐ
恙なく蔵に納めく今年米
木屋の香りほのかに一本橋
秋色にそまらし葉つばにキスをする
中村 洋子

谷川 利子
幾世八千代
杉山 和美
磯村美耶子
村井 範子
竹内ユミ子
渡辺 民子
山中 博子
都築 信子
竹内 艶子
服部 鞆子

▼正月用寄せ植え教室 十六日(土)午前九時正午 講師 高嶋清三さん(武豊山参草の会) 定員 二十名 加費 六千円

▼武豊町民会館
名作映画鑑賞会：八日(土)
①マダガスカル3 午前十二時半 ②宇宙兄弟 午後二時半 ③一枚のハガキ 午後三時半 定員 各回六百五十名(どなたでも) 無料

▼二二年度 芸術と科

後六時・同九時(クラブ
 ショップ)は午前十一時・
 後九時)入場料 大人三
 円 小人百円
 ◎碧南白竹木材
 白竹ギヤラシ
 ▼縁起もの(しめ縄・干支
 お人形などのお正月飾り
 展・一日(土)・五日(水)
 中根正治・加藤之康・
 谷純一・伊藤たかを・鈴木
 依田島ひとみ・廣田信子・
 崎良枝・高松千尋・後藤晴美
 梶原美喜・ふふ

若竹俳

作品募集
毎月十日までに葉書で
発行所へ

時（正午）講師 中定商店 中川安憲さん 定員

◎半田空の科学館


 バレーボール大会・二十二
 (土)
 ▼県公立高校選抜インド
 ソフトテニス大会・二十三
 日(祝)・二十四日(月・振)
 ▼東海選抜・常滑インド
 ソフトテニス大会・二十六
 日(土)・二十七日(木)
 ◎知多市地域文化センター
 ▼創作クラブ十二支をつ
 る会・一日(土)・二十八
 (金)・前九時・午後四時
 内容 和紙やクレイプ
 を使って、好きな十二支を
 作ります 材料費 一個百五十
 ▼季節の工作クリスマス
 かざり・一日(土)・二十
 日(月・振)・前九時・午後
 時半 内容 ヒノキやスエ
 の葉で作ったリースを木
 実やリボンで飾り、クリス
 マスの飾りを作ります 材
 費 一個三百円
 ▼ちっちゃないおそで
 せちりょうりけしむは
 こ・十一日(火)・二十八
 (金)・前九時・午後四時
 内容 ちっちゃなハン
 ちに消しゴムはんなのお
 ちを押して仕上げます
 料費 一枚五十円
 ▼特別工作「わらリース
 二十六日(水)・二十八
 (金)・前九時・午後四時
 内容 自分で作ったわ
 らに松や稲穂・水引・組紐
 を飾り、オリジナルなしめ
 巻を作ります 材料費
 一個三百五十円
 ◎ギヤラリー「共栄窯
 ▼正木涉陶展・八日(土)・

日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日 ア 日
紙作の四四五のマ料 おん平日半の材セ一
日(金) 〇ギャラリーセラ (常滑市観光プラザ内)
▼鯉江 廣 作陶展・三日
(月) 午前九時〜午後五時半
入場無料
▼澤田 朋大 陶展・七日
(金) 〇十七日(月) 午前九時
〜午後五時半 入場無料
▼常滑年末チャリティー陶
展・二十一日(金) 〇二十三日
(日) 祝年 午前九時〜午後五時
半 入場無料
◎常滑屋
▼常滑屋企画「クリスマス・
お正月飾り展」・四日(火) 〇
二十四日(月) 振
◎陶芸サロン 陶美園
▼常設展示 十二月中旬 陶芸
品持ちめし物・古布・創作服
◎ギャラリーセラ
(山のやぐ内)
▼山田の作品展・七日(金) 〇
十七日(月)
◎ギャラリーセラ こなめ
(常滑市陶磁器会館内)
▼善陶園展・八木孝幸・十
十一日(火) 午前九時〜午後
五時
▼青天窯グループ展・十三日
(木) 〇十八日(火) 午前九時
〜午後五時
▼一善陶園展・八木孝幸・二
十日(木) 〇二十五日(火)
午前九時〜午後五時
◎小ギャラリーとこなめ
(常滑市陶磁器会館内)
▼「陶」と灯の日・ランプブ
シエードコンテスト入賞作
品展・四日(火) 午前九時〜
午後五時
▼善陶園展・八木孝幸・六
日(木) 〇十一日(火) 午前九
時〜午後五時
▼青木一童展 #02・十三日

(火)十八日(火)午前九時
 午後五時
 ▼一菁陶園展・八木孝幸・
 二十日(木)二十五日(火)
 午前九時午後五時
 ◎方館
 ▼堀田憲児陶展・五日(水)
 ▼石水窯 稲葉安信陶展・七
 日(金)十九日(土)
 ◎武豊町歴史民俗資料館
 ▼「むかしくらし」展十八
 日(火)平成二十五年二月
 十日(日)明治から昭和にか
 けて使っていた生活道具の
 展示
 ◎武豊町立図書館
 ▼鉄道企画展・一日(土)く
 史、文化財に指定された転車
 台や旧武豊駅駅舎のパネル
 や珍しいSLの模型など鉄
 道にかかわる資料や本の展
 示
 ◎武豊町中央公民館
 ▼切り絵教室「来年の干支
 と切り絵の型紙の起こし
 方」四日(平)平成二十五年二
 月二十六日(三)五日(各)(火)
 計三回 午後一時半〜同三
 時半 講師 山崎修さん
 参加費 二千五百円 定員
 二十名
 ▼福寿堂⑧「詐欺を封じ、
 尊い命を守ろう」六日
 (木)午前十時正午 講師
 國分廣次さん(大昌寺住
 職) 対象 武豊町内在住の
 六十歳以上の方 無料
 ▼パソコン広場 六日、十三
 日、二十日(各)木 午後一時半
 〜同四時半
 ▼パソコンわいわい相談室・
 八日、二十二日(各)土 午後一
 時半〜同四時
 ▼手作りみそ教室 豆味噌
 (赤みそ)九日(日)午前十

学のハーマン・T特別講演
 脳の学者 茂木健一郎
 間の脳の無限の可能性に
 いて・九日(日)午後三時
 演 定員 六百五十名(未
 学児はご遠慮ください)
 加費 無料 受付終了し
 した
 ▼福井康雄講演会「宇
 一〇〇の謎」最先端の電
 天文学が解き明かす「宇
 と生命」その起源と謎・
 十五日(土)午後一時〜同
 時半 定員二〇〇名宇宙
 興味がある方 推奨年齢
 小学校高学年以上 無料
 ▼アニメーションのしく
 講座(簡単なアニメメシ
 ン装置を使ってアニメシ
 ションの基本的な仕組み
 学ぶ)・十六日(日)午後一
 半〜同四時半 定員十
 名(小学四年生以上) 参
 費 五百円(保険料含む)
 ▼ゆめプラモニアングコ
 サート 神谷舞ピアノコ
 サート ショパンをあな
 に・十九日(水)午後十時
 に同十一時半 曲名 十時
 のワルツ 雨だれの前奏曲
 幻想曲他
 ▼おおあし児童館
 ▼クリスマス会・二日(日)
 後一時半〜同四時
 ◎くすのき児童館
 ▼クリスマス会・二日(日)
 後一時半〜同四時
 ▼長尾児童館
 ▼クリスマス会・二日(日)
 後一時半〜同四時
 ▼親子で遊ぼう・十三日(木)
 午前十時半〜同十一時半
 ▼もちつき会・十五日(土)
 後一時半〜同三時
 ◎富貴児童館
 ▼クリスマス会・二日(日)

わが家のニューフェイス



浦木 あゆは(1才1ヶ月) 武豊町青木ヶ丘

	頑	い	遊	の	か	ん	に	な											
写	張	で	ん	。	ら	な	立	っ											
真	る	歩	だ	い	っ	が	っ	た											
・	か	く	り	と	す	と	て	よ											
文	ら	の	、	こ	っ	っ	み	。											
	応	夢	パ	の	ご	も	た	自											
	援	な	と	み	く	嬉	い	分											
	よ	ん	マ	ん	楽	し	な	で											
浦	ろ	だ	マ	な	く	そ	ん	気											
木	し	。	と	と	な	う	だ	付											
	く	一	手	走	に	し	け	か											
玲	ね	歩	を	り	回	ち	な	い											
奈	。	ず	っ	っ	っ	っ	ど	う											
		っ	な	て	う	る	み	ち											

	く	な	あ	こ
	ら	っ	ゆ	ん
	い	て	は	に
	歩	、	で	ち
	け	時	す	は
	る	々	。	、
	よ	ハ	一	う
	う	二	歳	ら
	に	歩	に	き



愛とMy Family



今井 唯斗(3才) 常滑市飛香台

	そ	で	け	マ	ッ	も	マ	に											
写	一	グ	て	の	赤	う	マ	乗											
真	緒	ラ	い	お	ち	す	の	っ											
・	に	ン	る	腹	ゃ	ぐ	お	て											
文	楽	コ	ん	に	ん	お	腹	踊											
	し	に	だ	向	元	兄	の	っ											
	も	乗	。	か	気	ち	中	ち											
	う	っ	産	っ	？	ゃ	に	う											
今	ね	た	ま	て	レ	ん	赤	よ											
井		り	れ	パ	っ	な	ち	。											
		歌	た	パ	て	ら	ゃ	今											
		や	ら	と	毎	、	ん	僕											
		踊	、	話	日	だ	が	の											
		ソ	公	し	掛	よ	い												
			園	掛			て												

	乗	踊	斗	二
	が	リ	、	ん
	流	が	う	に
	れる	大	歳	ち
	と	好	で	は
	ソ	き	。	。
	ズ	で	歌	今
	ム	、	と	井
	音	唯		



自動車に乗っていて...

大地震発生！

運転していないとき

津波からの避難以外には自動車の使用禁止



走行中のとき

安全な方法により左側端に停止

- ・ 引き続き車を運転するときは、道路の損壊などに注意しましょう。
- ・ やむを得ず道路に車をおいて避難するときは、左側に車を寄せて停めましょう。
- ・ エンジンキーを切り、キーはつけたままにしましょう。
- ・ 窓を閉め、ドアはロックしないようにしましょう。



常滑警察署



「生命の家」に暮らす。



武豊モデルハウス

お問い合わせは...

ひろがる夢をたしかな道で
株式会社 東海ホームズ

■本 社 / 〒475-0925 愛知県半田市宮本町五丁目329番地の6
■モデルハウス / 〒470-2309 愛知県知多郡武豊町字梨子ノ木17番地の6
TEL.0569-25-4399 FAX.0569-25-4396

東海ホームズ

検索

http://www.tokaihomes.net/

